

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.2)

1. 建物概要

建物名称	沼垂小学校	
建設地	中央区 鏡が岡5番5号、外	
用途地域	第1種住居地域、準F	
建物用途	学校	
竣工年	2012年11月 予定	
敷地面積	24,717.63 m ²	
建築面積	1,719.63 m ²	
延床面積	4,084.70 m ²	
階数	地上3F	
構造	RC造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2011年10月10日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{61}{36} = 1.6$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.7		バリアフリー	4.0
			維持管理	4.0
			更新性	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	2.9		耐震・免震	3.0
			信頼性	2.8
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	2.0		雨水排水負荷低減	2.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.5		建物の熱負荷抑制	4.0
			自然エネルギー利用	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.7		節水	4.0
			リサイクル材の使用	5.0
			再利用可能性向上	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	3.5		生物環境の保全・創出	3.0
			敷地内温熱環境の向上	4.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	4.5		まちなみ・景観への配慮	4.0
			地域性への配慮、快適性の向上	5.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

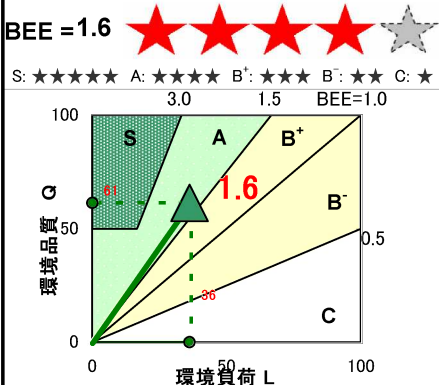
新潟市の重点項目に関する配慮事項を記載してください。
 長く歴史のある小学校である為、地域の人々からも親しまれ、その校舎改築工事にも関心も高い。その為より一層の緑や自然を多く取り入れた環境整備は欠かせない。また、この改築工事による周辺環境のより良い改善が出来る。当然ながら、地域の避難の拠点でも有り、地震やそれによる津波の対応も併せて行っている。

CASBEE[®]新潟

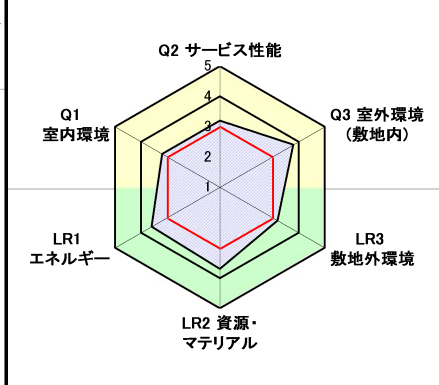
評価結果内訳

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.2)

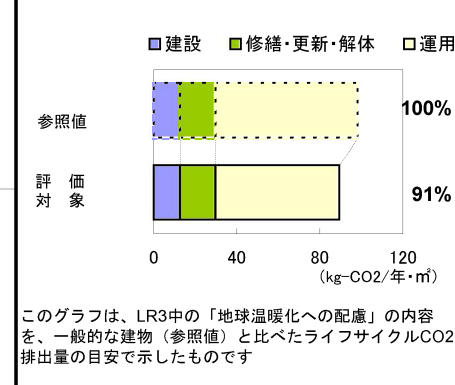
2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



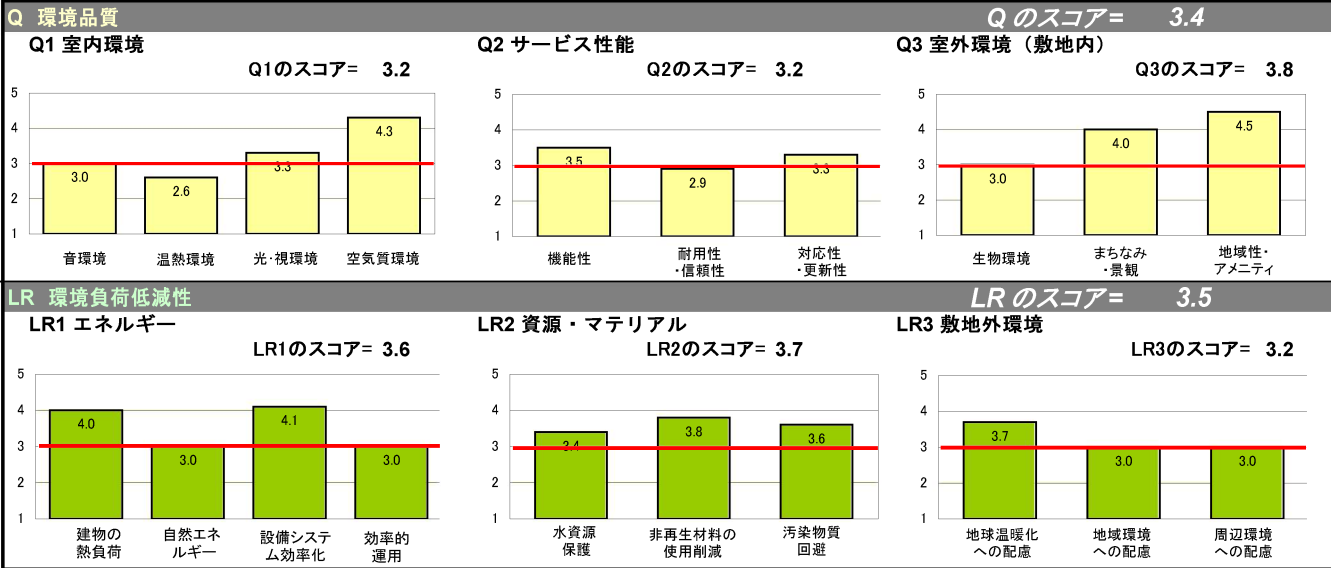
2-2 大項目の評価 (レーダーチャート)



2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-4 中項目の評価 (バーチャート)



2-5 設計上の配慮事項

<p>総合</p> <p>校舎をコンパクトに計画して、子供達と住民との記憶を留める既存の樹木全体を極力残した「学びの社」を提案した。空間スペースのみあるというだけの配置計画ではなく、将来、「学びの社」・「校舎・体育館」・「グラウンド」等が一体になった夢のある学校を提案した。建物形状はシンプルでありながら地域のランドマークになれるよう、過去の記憶(新発田藩の米蔵)に繋がるお米の形をモチーフしたアプローチを左右の建物ウイングの中心に配した。</p>	<p>その他</p> <p>新校舎建設に際し、取り壊される既存の校舎は廃材が分別され、その大半はリサイクルされる。また、仕方なく伐採される樹木も全て木材チップにしてリサイクルされるのではなく、一部は学校の記憶にとどめられるようサイン看板やベンチなどに加工する。</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>当然ながらシックハウスの原因となる材料は一切使用せず、ぬくもりを感じられる木や板などの自然素材を多く使用する。夏場や中間期の通風が効率よく出来るよう窓を配した。また、必要な部屋にはエアコンを設置した。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>1階に管理諸室と一般開放のできる特別教室を配し、上階に児童の教室を配した。これにより、児童の学習エリアと給食などの外部からのサービス動線や不審者対策を含む「見守り」を出来るようにした。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>ペア硝子の多用や2重サッシを設置することで、開口部からの熱損失を極力抑えた。従来の照明器具のほかに、LED照明も一部に採用しエネルギーの抑制に努めた。また、外灯の一部には太陽光発電や風力発電を備えたものを設置する。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>新校舎建設に際し、取り壊される既存の校舎は廃材が分別され、その大半はリサイクルされる。また、仕方なく伐採される樹木も全て木材チップにしてリサイクルされるのではなく、一部は学校の記憶にとどめられるようサイン看板やベンチなどに加工する。</p>
	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>既存の緑を多く残し、また、新しい緑を育成し、以前からあったビオトープを新たに整備して、野鳥や昆虫などの多様な生物の集まる「学びの社」をつくる。これにより、夏場の気温上昇を抑えることにも寄与できる。</p>
	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>新たな校舎を敷地の南側に配置することで、学校建物の影の大半を敷地内に収め近隣住民に対する影響を極力抑えた。また、夏場に起こるグラウンドの飛び砂を校舎が楯となり、敷地外への飛散を抑制した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい